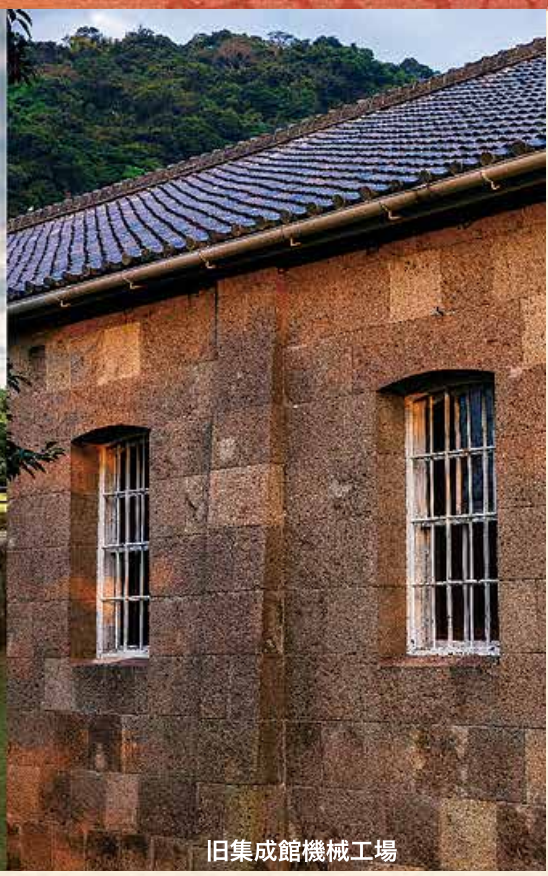
世界文化遺産登録５周年

明治日本の産業革命遺産

～「産業国家」日本の原点 鹿児島～

旧鹿児島紡績所技師館（異人館）

旧集成館反射炉跡


旧集成館機械工場

第1回 世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」とは

「世界遺産」とは、国境を越えて人類が共有し、次の世代に受け継いでいくべき遺産のことです。

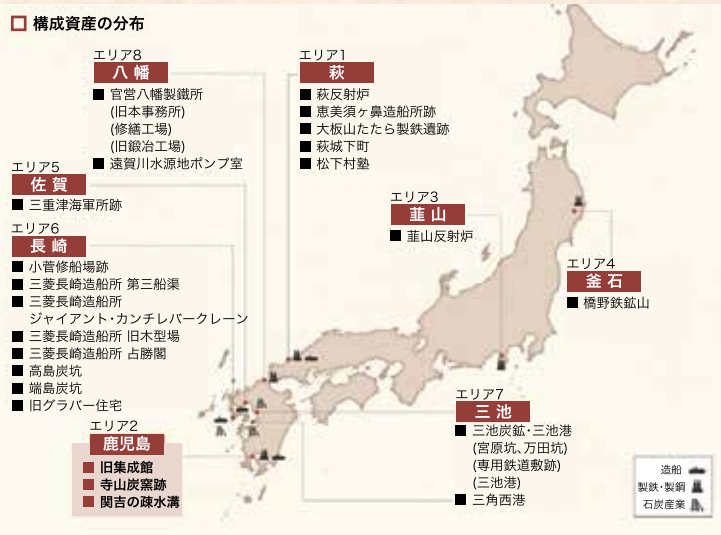
「明治日本の産業革命遺産　製鉄・製鋼、造船、石炭産業」は、平成27年に世界遺産に登録され、今年7月で5周年を迎えます。

この遺産は、日本が江戸時代の終わりから明治時代にかけてのわずか50年余りの短期間で、西洋の新しい技術と日本の伝統技術を融合させながら、非西洋で最初の産業国家となっていったプロセスを物語るものです。

その構成資産は、九州・山口を中心とした8県11市に23あり、鹿児島には、その中でも最も古い段階から始められた島津斉彬の集成館事業に関連する3つの資産（「旧集成館」、「寺山炭窯跡」、「関吉の疎水溝」）があります。

現在、日本は世界でもトップクラスの産業国家となりましたが、その近代化の始まりをたどると、19世紀半ばに斉彬が手がけた集成館事業に行き着きます。

今の私たちの暮らしは、斉彬が描いた夢を受け継ぎ、その実現に向けて知恵と工夫を積み重ねてきた、多くの人々の営みの上に築かれているのです。



関連情報

「明治日本の産業革命遺産」ガイドアプリパスポート

8県11市23構成資産のガイドや各エリアの情報などを、分かりやすく楽しみながらご覧いただけるガイドアプリを公開中!

ダウンロードはこちらから

〈iOS版〉　〈Android版〉